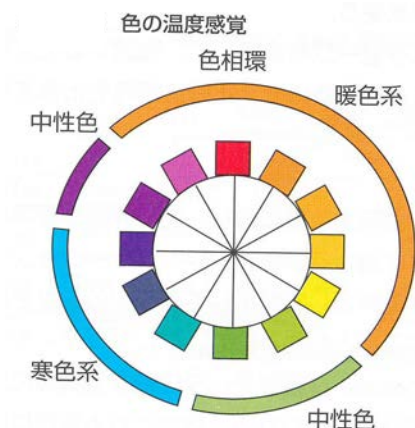


【1. 色の組み合わせがもたらすプレゼンテーションの効果】

PowerPoint で色を組み合わせることでプレゼンの効果がアップします。

1. 色温度によるカラー効果

色温度によるカラー効果とは、色によって暖かく感じたり、冷たく感じたりすることです。



暖色系・・・温かく感じる
明るく、動的・主観的な印象を与える。

寒色系・・・冷たく感じる
落ち着いて、静的、理性的・客観的な印象を与える。

中性色系・・・温度を感じない
中間的、中立的な印象を与える。

プレゼンテーションで強調したい部分は、暖色系の色を使うとよい。

<例>

暖色系
同じグループで明るく動的な効果をもたらす。

寒色系
同じグループで落ち着いて静かな効果をもたらす。

中性色系
同じグループで中立的な効果をもたらす。

2. 補色関係によるカラー効果



補色関係とは、色相環上で互いに向かい合う2つの色を補色と呼ぶ。たとえば、赤の補色は、青である。補色は相手の色を鮮やかに浮かび上がらせる効果がある。また、対立する二つの要素を表す場合も補色を使う。

<例>

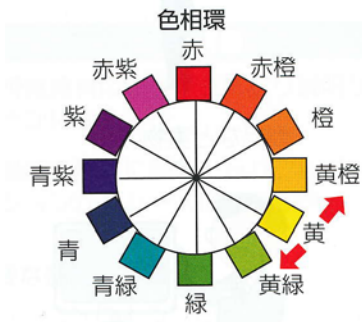
対立する二つの要素を表す例
男 (Blue box) 女 (Orange box)

お互いを強調させる色の組み合わせ
A red background with a green square and a white square.

素材を浮き上がらせる色の組み合わせ
A purple background with several lemons.

3. 類似色

図表 36 類似色

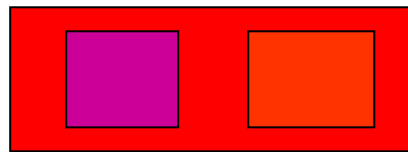


類似色とは、色相環上で両隣にある色を類似色と呼ぶ。
 たとえば、黄色の類似色は、黄緑色と黄橙色である。類似色は調和と融合を感じさせる効果がある。

そのため色を組み合わせる場合、類似色を使うことが多い。

<例>

調和を感じさせる色の組み合わせ



【2. 表を使った図解化】

表は、以下のように効果的に表現することで、印象を与えることができる。

成績一覧表(2011年6月10日実施分) 100点満点

| 科目 氏名 | 国語 | 算数 | 社会 | 英語 | 合計 | 平均 |
|----------|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 山田 太郎 | 80 | 90 | 90 | 90 | 350 | 87.5 |
| 山田 花子 | 60 | 80 | 70 | 60 | 270 | 67.5 |
| 鈴木 五郎 | 60 | 90 | 80 | 60 | 290 | 72.5 |
| 今市 太郎 | 20 | 40 | 30 | 50 | 140 | 35 |
| 少 洋子 | 10 | 40 | 30 | 20 | 100 | 25 |
| 合計 | 230 | 340 | 300 | 280 | 1150 | |
| 平均 | 46 | 68 | 60 | 56 | | 57.5 |

<表を作るときの注意事項>

1. 縦横の項目が示す内容を明確にする。
2. 強調したい部分は、文字に色を付けたり、背景に色を付ける。
3. 表のタイトルは、表の上部に書く。この時、データの出所、データ作成の年月日、各項目の単位を書くようにする。
4. 表の項目は、すべて載せるのではなく、説明に必要なでない項目は削除し、強調したい部分を PowerPoint に貼り付ける。詳しいデータが必要な場合は、その表を印刷して聞き手に資料として配布する。

【3. 図解化】

図解とは、説明の流れなどをわかりやすく図にしたものをいう。

<図を作るときの注意事項>

1. 読ませないで、見せる工夫をする。
2. プレゼンテーションの流れに沿った図であること。
3. 強調する部分にハッチング等を行う。
4. 図のタイトルは、図の下部に書く。この時、データの出所、データ作成の年月日、各項目の単位を書くようにする。

次の代表的な図解について調べなさい。

1. 組織図

2. 特性要因図

3. システム構成図

4. 系統図

5. 流れ図

【4. グラフによる図解化】

<グラフを書くときの注意事項>

1. 書く軸の軸名、目盛、単位を書く。
2. 凡例を書く。
3. グラフのタイトルは、図の下部に書く。この時、データの出所、データ作成の年月日、各項目の単位を書くようにする。

次のグラフの書き方と用途について説明しなさい。

<例>折れ線グラフ

時間とともに変化する（時系列）データを表すグラフに向いている。時間とともに伸びているか、減衰しているか、急激な変化点がないかを示すのに便利である。横軸を時間の変化、縦軸にその量をプロットしてプロットした間を直線で結ぶ。

1. 縦棒グラフ

2. 横棒グラフ

3. 円グラフ

4. 半円グラフ

5. 帯グラフ

6. 積み上げ棒グラフ

7. 散布図

8. レーダーチャート

9. ピラミッドグラフ (横棒グラフの応用)

10. 積み上げ面グラフ